みなかみBRの生物多様性保全上重要な里地里山における実効性ある保全手法の開発（群馬県みなかみ町）　みなかみBR-OECM登録検討協議会

令和４年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

みなかみBRは、群馬県の最北端に位置しており利根川最上流域に位置しており首都圏約3000万人の市民の水源地域としてだけでなく絶滅危惧種を含め生物多様性保全上重要な地域である。既往研究から移行地域において生物多様性保全上重要な里山の存在が明らかになったが、人口減少、少子高齢化、野生鳥獣害により耕作放棄地が増加し危機的な状況にあることから、里山の多様な主体からのヒアリングを行い現状把握を行いOECMを含む保全対策の検討を行うとともに、住民や市民団体と協働による増加傾向にある二ホンジカの低密度管理に向けた実践を行うことを目的とする。

事業の内容

ア　重要里地調査事業
１　ヒアリング調査
・里山の関係者6人に生物多様性保全上の課題やOECM登録に向けたヒアリング調査を実施。関心はあるもののエリア指定範囲、町の協力や調査支援など課題が明かになった。

２　重要里地情報収集
・みなかみBR科学委員会の開催し専門家からアドバイスをいただいた。
・師田、沢入、川上など9箇所のため池の植物相や動物相調査の実施。
・チャツボミゴケに生育地の水質・珪藻調査実施。
・GISを用いた土地利用図や変遷図を作成し、里地の変化や二ホンジカの生息推定に用いた。

イ　重要里地保全対策事業
３　ニホンジカ調査
・センサーカメラを用いてみなかみBR全域の21箇所、里山15箇所の調査を実施。
・みなかみBR南部においてGPS装着試験を試行した。

得られた成果

みなかみBR-OECM登録検討協議会については、みなかみBR科学委員会がみなかみBRの管理運営を担うみなかみ町により運営されており、発展的に継承される予定である。自然共生サイトやOECM登録への可能性についても候補地におけるヒアリングを通じて知見が得られたので検討を継続する予定である。ニホンジカの捕獲試験については、麻酔銃による捕獲に成功しGPS首輪をメスの成獣に装着した。効率的にGPS首輪を装着するための手法として麻酔銃による捕獲の有効性が示された。ニホンジカの捕獲体制について、農業被害対策という視点からみなかみ町農林課獣害対策センター等との連携を強め、連携した対策につなげていく。成果の一部は企業版ふるさと納税を活用した、三菱地所×みなかみ町×NACS-Jの協定につながり、10年間にわたる協働によるネーチャーポジティブ事業につなげることができた。